

公益社団法人 私立大学情報教育協会
サイバー・キャンパス・コンソーシアム
平成23年度 第4回統計学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時 平成24年2月21日(火) 17:00~19:00
場所 私立大学情報教育協会事務局

II. 出席者 中西、渡辺、各委員、今泉、高橋アドバイザー(事務局 井端、森下、平田)

III. 検討事項

今回は、学士力の実現に求められる統計学の教育改善モデルの再度確認を行った上で、モデルの授業の点検・評価・改善について検討を行った。

1. 学士力の実現に求められる教育改善モデルの確認

(1) 中間まとめ案1について

特に修正すべき点はなかった。

(2) 中間まとめ案2について

・「2. 授業デザイン」「2.1 授業のねらい」の「ここで提案する授業では、他の学問分野や地域や企業」はわかりにくいと、「ここで提案する授業では、他の学問分野および地域や企業」に修正し、それに合わせて「2.2 授業の仕組み」の「他分野の教員や企業」も「他の学問分野および地域や企業」に修正した。その他の修正は特になかった。

2. モデル授業の点検・評価・改善について

統計学の教育では、よい評価シートができれば、教育や教員の役割も自ずと見えてくるのではないかと、の委員会での意見を踏まえて、各モデルについて以下のとおり作成した。また、評価シートについては、今後の冊子編集の際に例示として提示することを確認した。

(1) 中間まとめ案1

本モデルは、統計学が問題発見・解決に重要な役割を果たすことを理解させ、社会と自己との関連付けの中でその限界を考えさせることを目的としており、専門科目と統計の統合授業を前提としていることから、以下の通り作成した。

- ① 専門分野の問題発見、問題解決に統計を活用できることを到達度の評価基準とする。そのための関係教員との役割分担を協議して決める。
- ② 学習到達度の自己点検を客観化するための評価シートを関係教員と連携して適宜作成し、プラットフォーム上で共有化する。
- ③ 評価シートの結果について、関係教員がそれぞれの役割分担の中で振り返りと意見交流を行い、協力して継続的な授業改善を行う。

(2) 中間まとめ案2

本モデルは、他の学問分野、地域、企業との連携の中で、社会の問題の理解、適切な仮説の設定、データをもとにした仮説の妥当性の確認といった問題解決のプロセスを身に付けさせることを目指し、グループ学習によるスパイラルな発展学習を行う提案であることから、以下の通り作成した。

- ① 課題に対する問題理解、仮説の設定や統計的問題解決プロセスの活用ができることを到達度の評価基準とする。その際、学外協力者の意見を取り入れ、学内教員の役割分担を協議して決める。
- ② 学習到達度の自己点検を客観化するための評価シートを学外協力者の意見を取り入れて適宜作成し、連携プラットフォーム上で共有化する。
- ③ 評価シートの結果について学外協力者の意見を求め、学内教員の中で振り返りを行い、継続的な授業改善を行う。

3. 今後のスケジュール

今回で今年度の委員会は最後となり、来年度は、本モデルの授業を実現するための「教員の教育力」についてまず検討し、その後で、モデルを冊子として提言するために、骨子のモデルに説明文章や授業の例示、イメージ図・表、などを追加していくことを確認した。